

| 月例経済報告（2025年1月）

● 月例経済報告（1/23）

基調判断	(1月) 景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。 (12月) 景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。
個人消費	(1月) 一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。 (12月) 一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2015年=100) 名目総消費動向指数（CTIマクロ） 11月 名目 +0.3% (3MA +0.2%) 実質 ▲0.0% (3MA +0.0%) 総雇用者所得 11月 名目 +0.4% (3MA +0.3%) 実質 ▲0.3% (3MA ▲0.1%) 実質総消費動向指数（CTIマクロ）
設備投資	(1月) 持ち直しの動きがみられる。 (12月) 持ち直しの動きがみられる。 製造業・非製造業の設備投資（名目額） (兆円) 非製造業 ソフトウェア投資 (目盛右) 製造業
住宅建設	(1月) おおむね横ばいとなっている。 (12月) おおむね横ばいとなっている。 住宅着工戸数（季節調整値） (年率、万戸) 11月 77.5万戸 3MA 78.5万戸
雇用情勢	(1月) 改善の動きがみられる。 (12月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 (万人) (%) 就業者数 11月：6,808万人 雇用者数 11月：6,161万人 就業率（目盛右）

生産	(1月) 横ばいとなっている。	鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2020年=100)															
	(12月) 横ばいとなっている。																
輸出	(1月) おおむね横ばいとなっている。	地域別輸出入数量指数 (2020年=100) ①輸出 <table border="1"><thead><tr><th>地域</th><th>11月</th><th>3MA</th></tr></thead><tbody><tr><td>全体</td><td>▲2.8%</td><td>+0.1%</td></tr><tr><td>アジア</td><td>▲0.6%</td><td>+0.9%</td></tr><tr><td>アメリカ</td><td>▲8.2%</td><td>▲2.1%</td></tr><tr><td>EU</td><td>▲7.3%</td><td>▲3.5%</td></tr></tbody></table>	地域	11月	3MA	全体	▲2.8%	+0.1%	アジア	▲0.6%	+0.9%	アメリカ	▲8.2%	▲2.1%	EU	▲7.3%	▲3.5%
	地域		11月	3MA													
全体	▲2.8%	+0.1%															
アジア	▲0.6%	+0.9%															
アメリカ	▲8.2%	▲2.1%															
EU	▲7.3%	▲3.5%															
(12月) おおむね横ばいとなっている。																	
国内企業物価	(1月) 緩やかに上昇している。	企業物価の推移 (2020年=100)															
	(12月) <u>このところ</u> 緩やかに上昇している。																
消費者物価	(1月) 上昇している	消費者物価の推移 (連鎖基準、指数) (2020年=100)															
	(12月) <u>このところ</u> 上昇している。																
海外経済	(1月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響による下振れリスク、アメリカの政策動向による影響に留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。 (12月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響による下振れリスク、アメリカの今後の政策動向による影響に留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。																